

大学院等における社会人の自己啓発の現状及びその支援のあり方

[研究メンバー]

主査	川喜多喬	法政大学教授
	木村 周	筑波大学教授
	高木晴夫	慶應義塾大学教授
	高森寛	青山学院大学教授
	橋本佳奈	テンプル大学 JAPAN 常務理事
	松繁寿和	大阪大学助教授
	三谷直紀	神戸大学助教授
	柳 孝一	多摩大学教授

[報告書目次]

- I 調査の目的と方法、調査対象
- II 集計結果及び分析
 - 1 社会人向け大学院の利用者像
 - 2 社会人向け大学院入学の経緯・目的
 - 3 大学院での履修状況
 - 4 職業と勉学の調整、大学院進学と職場からの支援等
 - 5 社会人向け大学院への評価
 - 6 社会人向け大学院通学と職業変動（卒業者）
 - 7 企業の自己啓発助成制度・それへの要望
 - 8 社会人向け大学院通学への需要、課題、公的助成への要望
 - 9 自由記入意見
- III 提言
- IV 調査結果所感及び実地調査報告

[内容要旨]

産業構造、就業構造の急速な変化や、企業における実力主義的処遇の志向の高まり等を背景に、自己啓発による能力開発が一層重要になると考えられるが、近年、社会人を対象とし、高度で専門的な職業能力の習得を目的とした大学院が整備されつつある。

そこで、社会人向けの大学院の在校生及び卒業生を対象に、その属性や現状、問題点、ニーズ等について調査・研究し、今後の政策の立案にあたっての参考資料とすることとした。

(1) 社会人を対象とした大学院の在校生及び卒業生を対象にアンケート調査を行った。その結果、

次のような事情が明らかになった。

(注) アンケート調査にあたっては、研究会委員の所属大学を中心に協力を依頼し、大学院の社会人学生及び卒業者等 627 人の回答を得た。

1. 社会人向け大学院の意義

- ・大学院に通学して学ぼうとする社会人が増加している。
- ・大学院も高度な職業能力等をもった社会人の育成機能を持ち始めている。

2. 大学院通学を求める社会人のニーズ

- ・修士号等の取得により、労働市場などにおける自己の評価を高めようという学歴志向、職務を遂行する上での非定型能力（広い視野、論理的思考力）の向上、将来的に転職・独立しても役立つ専門能力の向上のように企業内教育によっては獲得できないものを求めている。
- ・企業の体制未整備等から、社内教育に依存することができない社会人は、職務に直接役立つ知識・技能の獲得を求めている
- ・職業生活、家事などと両立しながら勉強することが困難であるという声も多い

3. 社会人向け大学院の評価

- ・広い視野の獲得、仕事を離れた人脈の形成、論理的な思考力の習得のほか、修士号、博士号の効率よい取得、いつか社内または他に転職して役立つ専門知識獲得等が評価される。

4. 大学院通学による自己啓発の推進への現状での障害・課題

- ・通学時間の確保、費用負担、企業等の理解や助成能力、大学院通学・修了への企業等からの評価の低さ、大学院に関する情報不足。

(2) 上記(1)を踏まえ、労働者が自己啓発をし易い環境を整備するための方策の検討を行った。

1. 企業への提言

- ・自主的に大学院へ通学する者への援助措置を拡充すること。
- ・卒業後、通学による職業能力の向上、資格取得などを評価すること。
- ・社会人向け大学院についての情報を提供すること。

2. 大学院等への提言

- ・大学院等の通学のため、夜間講座の実施など受講形態の多様化を図ること。
- ・社会人が転勤、転居によって大学院等の通学を中断することがないように、大学院間の単位互換の推進などを図ること。
- ・社会人のニーズに対応した講義の設置を行うこと。

3. 行政への提言

- ・大学・大学院などに対し、社会人への一層の開放を働きかけること。

- 時短やフレックスタイム制の一層の普及・促進に加え、長期の休暇を含め、自主的な能力開発のための休暇の普及を企業等に対して図ること。
- 労働者の自主的な勉学に対し、費用の一部助成等を行うこと。
- 社会人の職業能力開発に関する情報提供や相談援助を充実し、身近な窓口で提供できる体制を整備すること。
- 大学院におけるカリキュラムがビジネス・キャリア制度や公的資格と連動するようにすること。